

# 連載 防災マニュアルは心の中に！

今よりもより良くして次世代に受け渡す「**次世代から預かっている**」という意識を持つことが「**本当のまちづくり**」です。今回は「**まちづくり**」を考えます。

まちづくりといえば、地域を生き活きとしたまちにするには「地域活性化」といわれることが多いようですが、最近では「**地域豊穡化**」ともいわれています。確かに豊穡化の方が豊かに実る感じがします。でも「**豊穡**」を「**豊醸**」と言い換えた方が、まちづくりという意味ではより良いように思います。何故なら「**穡**」というのは「今年**は**豊穡だ」というような、一年という単位で短期的なことのように思われます。でも「**醸**」というと、味噌・醤油・酒などの数年から数十年の長期間熟成させる「醸す（かもす）」というものに感じるからです。地域というものは、色々な人が集まり、様々な意見を出し合い住みやすくしてはじめて「**まち**」になるのだと思うのです。

どこからかやって来た「**種**」が芽をふき、大きく育ち、花が咲き、実が実り、種ができる。長い時間を掛けて育てたが「**種**」が、また次の地域に伝わり、その場所で再び実ります。ところが育てる人によって色や形が変わります。それぞれの人の思いや力など、構成する人の醸し方の違いで別なものへと変化するのは。この「**地域豊醸化**」に関わる人のことを次のように表現する方がいらっしやいます。

「**風の人**・**土の人**・**水の人**」に加えて「**光の人**・**火の人**」です。諸説解釈がありますが、我々なりの解釈で表現することとします。

「**風の人**」とは、地域の外から理想の種（もの・情報・人・知識等）を運んだり持ち出す人。または地域内の止まった空気を動かす源をつくったり、風の力で芽生えたものに刺激を与える人。

「**土の人**」とは、その土地に運ばれてきた種を温かく守る人。地域を支えコツコツと耕し土台的な人。

「**水の人**」とは、その種に水を与えてくれる人。芽吹くきっかけをつくる人。興味や関心をもって育てる人。小さな動きを面白がり、損得や利益の為ではなくイベントや活動に関わり、動きのきっかけを作る人。

「**光の人**」とは、醸す過程の色々な情報を人に伝えてくれる人。地域に埋もれている宝物に光をあて情報を発信していく広報的な人。

「**火の人**」とは、実った実を調理し食べやすくしてくれる人。判りやすく伝えてくれる人。

これらの人達（性質・個性）がうまく関わり合いながら小さな種を「醸す」のですが、何れかに偏ってしまうと地域豊醸化は進まない以上に、**力の偏り**が地域

を崩壊させてしまうこととなります。また、その偏りは折角育っている種に悪影響を及ぼす「害虫」を呼び寄せることにもなります。一度害虫が発生すると駆除するのに大きな労力を使わなければならない、それ以上に「育てることを諦めてしまう」ことになりかねません。そのような緊急事態には、みんなで力を合わせ、何が悪かったのか、これからどうすれば良いのかを話し合い、考えることが重要となります。但し、その虫が害虫か？益虫なのか？を判断できる知識を事前に手に入れておくことは「それぞれの人」に必要な地域豊醸化への



「**大切な学び**」なのです。また、性質・個性が違うからといってお互いを疎まないことが重要です。この性質の違いを原因に、地域でも人を責めたり遠ざけたり排除したりということが起こる場合、それらは見えない所で地域豊醸化のブレーキとなります。風の人から見れば、他の地域では「種」が簡単に育ったのに、この土地では何故育たないのだ？「**土が悪い**」と決めつけることがあります。しかし土の人から見れば「はじめて見る種。コツコツ時間を掛けて育てよう」と考えていることに風の人は気が付かずイラだたりもします。また、毎日地道に耕している土の人からすれば、メディア的な光の人は実体がないように見え、反対に光の人からすれば、情報発信がなければ、新しい技術や手法が届かず「育たない危うさ」を感じるようになるのです。そうやって、お互いを認めずにすれ違ってしまうというのは、非常にもったいないことです。考え方や手法が違う人に対して「何故そんなことをするの？」と不安な気持ちがよぎることは誰しもありません。けれど、その原因は単純に「**他人は自分と違う性質『個性』をもつ**」たったそれだけのことなのです。

自分は、自分で自分の性質『個性』を全開に生かしてやるべきことをやる。それぞれの人は、それぞれの人の性質『個性』を生かしてやるべきことをやっている。「**自分が出来ないことを他の人はやってくれている。他の人が出来ないことを自分はやっている。**」そう考えれば、地域は足を引っ張り合う場ではなく『**発展する場＝豊醸のまち**』に変化していきます。

地域には多彩な人材がいます。違う性質のものが交わると、自分が持っていない良さを学ぶこともできるし、**それぞれの性質『個性』を出し合ってコラボレーションし、新しいものを生み出す**のです。

例え話に「伝統工芸職人が高品質のものを作る」×「商売上手な人が営業して利益を出す」＝「**伝統のものづくりが永く続いていく**」。そんな結果を生むように自分と違う性質『個性』をうまく醸し合わせることで、今までなかった**地域豊醸化**が進みます。今回は「**土の人**」について

